

氏名	高 杉 州 起
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1289 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和57年 6 月 30 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	先天性筋性斜頸の観血的治療に関する研究 ——筋全摘出術（Mikulicz 法）の遠隔成績と摘出筋の組織 学的観察——
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋 教授 折田 薫三 教授 村上 宅郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

先天性筋性斜頸の観血的治療法として筋切り術と筋全摘出術が報告されているが、わが国では筋切り術が主に実施されている。しかし、筋切り術はその遠隔成績から、とくに3才未満の年少児に再発傾向があることが知られており、一方、筋全摘出術の遠隔成績は著者の知りえた範囲において報告をみていない。また、罹患胸鎖乳突筋全長の組織学的観察から治療法を検討した報告もあまりない。著者は典型的拘縮期筋性斜頸に関して、20例の筋全摘出術の遠隔成績を調査した結果、斜頸位拘縮は消失し、顔面・脊柱変形は改善し、また、術後の筋輪郭消失は美容的欠陥にならないことを知った。これとは別の14例の摘出筋を縦断観察した結果、11例（79％）は高度、3例（21％）は中等度の線維化を筋全長に認めた。以上の研究から、筋全長にかつ高度に認められる線維化をほぼ完全に摘出できる筋全摘出術がとくに3才未満の年少児には最適の観血的治療法と考える。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は先天性筋性斜頸の観血的治療に関する臨床的研究であるが、罹患胸鎖乳突筋全長にわたり線維化が認められることまた手術後の遠隔成績を検討した結果3才未満年少児に対しては筋全摘術が最適の治療法であることを立証したものであり価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。